

帯広市立愛国小学校 学校だより



あいこく

令和7年1月10日（金）発行 No.20 文責 校長 合田 真晃

学校教育目標

豊かな心で協力しあえる子ども
自ら学び創造し深く考える子ども
何ごとにも進んでやりぬく強い子ども

何でも「自分から」の3学期に！



16日間の冬休みが終わりました。大きな怪我や事故などの報告もなく、それぞれが無事に新年を迎えることができたのではないかと想像しています。保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今日から48日間の3学期が始まりました。3学期は、令和6年度の1年間を締めくくる大切な期間となります。「終わりよければ全てよし」とはよく言いますが、しっかりと自分自身を見つめて、できているところや伸びているところは自信をもってさらに伸ばし、足りていない部分やもう少し頑張った方がいいと思っているところには目を背けずにしっかりと向き合って、最終的に自身で「よし！」と思えるような学年末を迎えられるようにしてほしいと思います。

とは言え、自らの課題と向き合うのは実はなかなか難しいことでもあります。そんなときにポイントとなってくるのは「楽しい」という感情を抱けるかどうか。2学期の終業式に、子どもたちにパズルを例に次のような話をし、楽しいと思えるポイントについて考えてもらいました。

「みんな、パズルってやったことある？」「パズルって楽しい？」という問いかけに、多くの子どもがうなずいて反応を返します。続けて、「どうして楽しいのかな？」と訪ねると、数名の子どもが手を挙げ「自分でいろいろ考えながらやるのが楽しい」「最後のピースを入れて完成させる時がうれしい」と答えます。「じゃあ、勉強はどう？」と訪ねると、予想通り、首を振る子どもや顔をしかめる子どもなど、ネガティブな反応の子どもが多く見られました。

そこで、「実は、同じことでも、楽しくなったりそうでなくなったりすることがあります。今日はそのことについて考えるよ。」と話を続けます。「さっきのパズルなんだけど、校長先生が全部一人で作っていった、最後の1ピースだけ“はい！”って渡されたらどう？」と聞くと、「自分で作らなくちゃ楽しくない」と反応が返ってきました。「じゃあ、自分で作らせてあげるけど、“まずは真っ直ぐなところのある外側のピースを全部見つけてね”“次は緑色のところから作るよ”と全部教えてもらいながらやるのは？」と聞くと、当然それも楽しくないという反応が…。「あれ？さっき楽しいって言ってたパズルなのに、どうして楽しくなくなっちゃうんだろう…。」と話すと、子どもたちはみんな「自分でやるから楽しいのか…」ということに気がついていきます。そこで最後に、「では、みんなの“勉強”はどっちになっているかな？人から言われたことをやるだけ、教えられるのを待っているだけになってない？今わかったように、それでは楽しいはずなんじゃないかね。間違ってもいい、失敗してもいいから、自分からいろいろ考えてみるときっとどんなことでも楽しさを味わうことができるよ！」



少しでもわかりやすく伝えたいと思い、パズルを例にして話をしましたが、子どもたちの顔を見ている限り、しっかりとメッセージは伝わったように感じています。

「自分から」という点については、これまでにお伝えしてきた、インプット型の「受け身」の学びから、「子ども自らが主体」となって学びを深めていく授業への転換を図る上でも、非常に大きなポイントとなってくる部分です。そのため3学期の学校生活の中でも、子どもたちが「自分から」動きだしたくなるようなアプローチを続け、結果として子どもたち一人一人がたくさんの楽しさを味わうことができるような取組を進めていきたいと考えています。保護者や地域の皆様には、引き続き様々な面でのお力添えをお願いすることになるかと思いますが、教職員一同、一丸となって子どもたちと向き合って参りますので、今後も引き続き皆様のお力添えをいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

2学期末の12月に急なお知らせをさせていただいたとおり、これまでみなさんにお世話になっていた中井教頭が明星小学校へ異動となりました。それに伴い、愛国小学校には、1月1日付で新しく千葉教頭が着任しています。本校での勤務はまだ1週間しか経っていないところですが、すでに職員室に新たな風を運んで来てくれていることを感じています。今日は子どもたちとはじめての出会いとなりましたが、きっとこれから楽しく学校を引っ張ってってくれること間違いなしです。

保護者・地域の皆様には今後も様々な面でお世話になるかと思えます。引き続き皆様のお力添えをお願いいたします。

着任のご挨拶

このたび1月1日付で若葉小学校主幹教諭から愛国小学校教頭として赴任いたしました。歴史ある愛国小学校の一員として勤務できることを大変光栄に思っています。子ども達の安全を守り、安心して学校に登校することができるよう精一杯尽くしたいと思います。早く子ども達や保護者、地域の皆様の顔と名前を覚えて、“愛いっぱい元気いっぱい希望あふれる愛国小”で学ぶ児童と共にがんばっていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

千葉 由香（ちば ゆか）



子どもたちの頑張り

子ども達には、「学校には、毎日には、本当にいろいろなChanceがあるよ」ということを伝えていきます。そんなチャンスをつかむことで、想像しているよりもたくさんの喜びを味わうことにつながっていきます。今回は、3・4年生の子ども達がみんなでつくり上げた壁新聞が見事コンクールで入賞し、全員で表彰式に参加してきました。頑張ったからこそそのご褒美に、喜びもひとしおです。

上記は、12月末に更新した学校HPの記事の一部ですが、毎日の生活の中には、本当に意外なほどたくさんのチャンスが潜んでいます。そんなチャンスを、子ども達には今後も大切にしてほしいですし、学校としては意図的にそういった機会を数多く創出し、子ども達一人一人がたくさんの喜びを味わうことができるようにしていきたいと考えています。

そんな中、昨年に続いて、愛国小学校の子ども達の頑張りが大きく認められ、大変うれしい評価を日専連の版画コンクールでいただいています。13日(月)には、表彰式が行われる予定ですので、また次号でその様子をお伝えします。

KAZU（三浦 知良）選手から サッカーボールが届きました！



みなさんこんにちは。三浦知良です。明治安田さんとともに、僕の背番号11にかけた1.1万個のサッカーボールをお届けします。僕は、「夢は、語った方がいい。言わなきゃ、何も始まらない。」そう思っています。未来に向かってたくさん挑戦してみましょ。そんな子どもたちの未来に向けた挑戦の一步を全力で応援しています。

（寄贈のボードに書かれているメッセージです）

昨年度、大谷翔平選手が、全国の小学校に野球のグローブを寄贈してくれたのは記憶に新しいところですが、この度、サッカー界のキングと呼ばれるカズ（三浦 知良）選手から、サッカーボールが愛国小に2個寄贈されました。これは、明治安田様が行っている、「未来世代応援活動」の一貫として、カズ選手の背番号である11にちなんで1万1千個のサッカーボールを寄贈する取組ということで、なんと帯広では愛国小学校が唯一その対象に選定されたということです。

日頃から、休み時間のたびにサッカーを楽しんでいる子も多いことから、1週間程度玄関に展示した後に、すぐに使わせていただこうと思っています。いろいろな人の思いのこもったボールです。大切に使わせていただきます。



寄贈の時の様子です。本校保護者のNさんのおかげもあって本校が対象になったということです。心から感謝いたします！